



私の人生における聖霊の務め

(Ministry of the Holy Spirit in My Life)

ポール・ガバネク(スロバキア)

(Paul Gabanek)

25 Toryska, 821 07 Bratislava, Slovakia (Europe)

Bratislava 2004

目次

序論

日常生活における聖霊の務め

御使いとの初めての出会い。イエスに従うようにとの神の召し

聖霊を受ける。聖霊の中にバプテスマされる

福音の務めの始まり

聖霊による神の助けといくつかの奇跡

主が私たちの祈りを聞いて雨を降らせて下さったこと

いくつかの癒しの奇跡

困難な状況における驚くべき助け

神はご自分の子供たちの必要を顧みて下さる

十字架の道における聖霊の務め

迫害の時期の経験

獄中の経験

序論

霊的な生活において聖霊の務めは非常に重要です。コリント人への第二の手紙第3章6-12節ではパウロはふたつの務めについて書いています。第一に、旧約の時代における「文字の務め」、第二に新約時代の「霊の務め」です。そして、聖霊の務めは栄光あるものとも言っています。

世界中になぜ多くの異なった宗教があるのでしょうか？ また、世界中になぜ多くの異なった教会があるのでしょうか？ なぜ多くの異なった教えがあり、なぜ多くの異なった信条などがあるのでしょうか？ この問題はただ一つの真実の答えによって解くことができます。その答えはこうです。人々が神の戒め (God's commandments) とイエス・キリストの命令 (orders) に従わないことです！

これは初めからそうであったわけではありません。神の言葉は唯一の命の光です。特に霊的な生活においてそうです。使徒たちは3年半の間イエスと共に生活をしました。彼らは完璧な神学的教育を受けていたと私は確信します。即ちご自身が彼らに教え、彼らは彼の奇跡を見ました。しかし、それは彼らが福音を宣べ伝えるという将来の務めには十分ではありませんでした。

イエスは彼らに命じました。「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。」(使徒 1: 4) そして、その後で、「ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となる。」(使徒 1: 8) この命令は弟子たちに与えられただけでなく、すべての信者たちに与えられました。なぜなら、こうあるからです。「この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである。」(使徒 2: 39)

「父の約束を待っているがよい。」という命令、すなわち、聖霊によるバプテスマを待っているようにとの命令はイエス・キリストの福音を告げ広めようと願っている者たちにとっては最も重大なメッセージです。イエスが使徒たちに「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。」(ヨハネ 16:13) と言われたゆえに、すべての信者にとって、これは最も重要なことです。しかし、私たちが聖霊を受けなければ、彼はどのようにして私たちを真理へと導くことができるでしょうか？ それは不可能です。現在、それがキリスト教の最大の問題です。1,000種類以上ものキリスト教信者とキリスト教の教えがあるからです。使徒たちの時代には三つのタイプのクリスチャンがいました。

(1) イエスの命令に従った強い信者たち。彼らは悔い改め、バプテスマされ、聖霊の賜物を受けました。(使徒 2: 37-39)

(2) サマリヤの弟子たち。彼らはイエスを信じて水の中にバプテスマされましたが、だれも聖霊の約束(訳注:使徒 8:16)を受けていませんでした。そこで、使徒たちがエルサレムからサマリヤにやって来て、「彼らのために祈った。それは、彼らはただ主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊はまだだれにも下っていませんからである。そこで、ふたりが手を彼らの上においたところ、彼らは聖霊を受けた。」(使徒 8:15-17)

(3) エベソの弟子たち。使徒パウロは彼らに「あなたがたは、信仰にはいつか、聖霊を受けたのか」と尋ねたところ、「いいえ、聖霊なるものがあることさえ、聞いたことがありません」と答えました。(使徒 19:1-6) しかし、その後彼らはみな福音の豊満を受けました。その主たる結果はこうでした。即ち彼らは皆、一つの教えを教え、同じ福音を説き始めたことです。ですから、当時、「信じた者の群れは、心をついにし思いをついにし」いました。これは聖霊の働きでした。彼らは自分の持ち物を分け合い、貧しい者はひとりもいませんでした。そして、彼らは非常に力強く証しをし、偉大な恵みが彼らの上に注がれました。(使徒 4: 32-34)

しかし、今日、イエスの足跡を辿ろうと思うクリスチャンは殆どいません。ですから、非常に多くの異なる教えと信者たちのグループがあるのです。なぜなら、彼らは聖霊のバプテスマを受けたことがないからです。多くのクリスチャンはイエスがこう言われたことを忘れていました。「しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主(聖霊)は来ない。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。」(ヨハネ 16:7)！この助け主の役割はキリスト教会の中で非常に大きいのです。彼が今日の教会建造の主たる建築者です。なぜなら、彼が地上でイエス・キリストの働きをなさるからです。私たちはイエスなしには何もできません。彼がそう言うておられます(ヨハネ 15:5)。聖霊についても同じです。なぜなら、彼だけがイエスの代表であるからです。だれも彼の代わりになることはできません。これは非常に重要です。最も優れた神学校でも聖霊なるパースンの代理はできません。

日常生活における聖霊の務め

私は 1932 年 2 月 19 日スロバキアの首都ブラチスラバで生まれました。父はプーショウ(Puchov)出身、母はハンガリーの首都ブダペストの出身でした。両親は信者であり、教会に通いました。私たちが神を畏れることと神を礼拝することを教えてくれました。彼らはブラチスラバに住んでいましたが、キットゼーの教会とオーストリアのウィーンの教会に出席しました。(写真 1:母、写真 2:父、写真 3:1 歳半の時の著者、写真 4:50 歳の著者、写真 5:キットゼー村での最初のペンテコステ派の集会)

私の両親は彼らの子供のために熱心に祈りました。母は第二次世界大戦中に亡くなりました。母の祈りが神の御座に届いたと私は信じています。神が彼の聖霊によって私に語って下さいました。私は自分が罪人であることを示されました。神は私を恵んで下さり、私は悔い改めました。これは神が私に与えて下さった最大の恵みでした。私が未信者であった時はよく病気を患って、わびしい生活を送っていましたが、神に転じるや、私の生活は完全に変わってしまいました。イエスがヨハネ 10:10 で約束して下さいしている通りです。「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」神に戻るということは正常な生活に戻るということです。私が悔い改めてからというもの、私の性格が変化しました。そして、私は新しい命を生きることを開始したのです。

私は御使いたちが天国で大喜びしたのを感じました。かつて、私は心の中でこんな喜びを感じたことは一度もありませんでした。私の周りの世界、即ち、人々、友人たち、自然、なにもかもが変化したように思えました。その時、私の中に本当の変化が起こったことは分かりませんでした。聖書は言います。「心の清い人たちは、さいわいである、彼らが神を見るからである。」(マタイ 5:8) 私たちは既にここ地球上で神を見ることができるようです。「すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。」(ヘブル 12:14) 天国に入ることは地上で生きている間に生じなければなりません。イエスは言われました。「よくよくあなたがたに言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわされたかたを信じる者は、永遠の命を受け、またさばかれることがなく、死から命に移っているのである。」(ヨハネ 5:24) ほとんどの信者たちは天国に入ることは死後に起こると考えています。そうではありません、それは現在、私たちが新しく生まれた時、私たちの生活の中でスタートするのでなければなりません。イエスがニコデモに言われた通りです。「よくよくあなたがたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」”(ヨハネ 3:5)

御使いと初めの出会い。イエスに従うようにとの神の召し

それは 1948 年に起こりました。一度、私は夜中に目覚めました。私の部屋は真っ暗でした。突然、そこに強い光が差しました。主の御使いが私の寝室に現れたのです。それで部屋が非常に明るくなりました。御使いは私のベッドの側に立ちました。その顔は輝いていました。目は火のようであり、衣は雪のように真っ白でした。私は彼を見ることができませんでした。聖なる恐れが私を襲いました。彼が言いました。「来なさい、そして、イエスに従いなさい。そして、彼の証し人となりなさい… 生涯、私はあなたと共にいます。」私が祈り始めると、御使いは姿を消して、寝室は再び暗くなりました。私はその時、眠ることができませんでした。私はまだ神の聖なる存在を感じ

ていました。私は朝まで祈りました。部屋は神聖さに満ちていました。壁や椅子や窓さえもが神の臨在のために非常に特別に見えました。以前、私はそのような現れに出会ったことはありませんでした。御使いの話は作り話ではないとわかりました。私は驚いてしまいました。(写真 8~11: 私たちの最初の集会の家、写真 9: 聖なる御使いが現れた部屋)

御使いが 2 度目に私に現れたのはシトノ山の森の中でした。夜中、私が道に迷って森の中を歩き回っている時でした。御使いが私を助けて森から導き出してくれました。私はひざまずいて、神に栄光と感謝を捧げました。

その時、私は神が本当におられ、天も本当にあって、私たちが考えるよりも近いところにあることがわかりました。大抵の信者は天は非常に遠い所にあると考えていますが、非常に近いのです。(写真 7) 私たちが救われたなら、それが私たちの中で起こらなければなりません！(1ヨハネ 4:12) その当時、ブラチスラバには聖霊のバプテスマを受けた信者たちのグループは小さなペンテコステ派グループ一つだけしかありませんでした。彼らは御使いの言葉で祈り賛美をしました。彼らはとても熱心でした。(写真 6) それは栄光なる光景でした。私はそこで神の臨在を感じました。彼らの中に天の王国がありました。その頃、私はイエスが言われた通りに水のバプテスマを受けました。「信じてバプテスマされる者は救われる。」(マルコ 16:16)

聖霊を受ける。聖霊の中にバプテスマされる

私はまた、聖霊の中にバプテスマされることを切望しました。3ヶ月の間、時々、断食をしながら祈りました。私は家の中で祈り、自然の中でも、森の中で祈りました。ある真夜中に私が森から戻ったとき、神が私の祈りを聞かれたことを確信しました。私は大きな喜びを受け取って、最早や悲しくはありませんでした。神が私たちの祈りを聞かれたなら、私たちにはそれがはっきりします。サムエル記 1 章に書いてある通りです。(そこでエリは答えた、「安心して行きなさい。イスラエルの神はあなたの求める願いを聞きとどけられたから。」1サムエル 1:13-18。)

1週間後、私は一人で家にいて霊的な歌を歌っていました。私は御霊に感じて祈り始めました。それは午後 3 時ころ、聖書では第 9 時のことでした。私は部屋の中に神の臨在を感じました。数分後に、炎の舌が窓から入って来るのが見えました。そして、それが私の上に下りました。私は普通の言語で祈り続ける事が出来なくなりました。私はもうただ聖霊に満たされて、他の言語で語り始めました。御霊がそれを可能にしたのでした。九つの言語で神に栄光を帰し、賛美しました。まさに、地上の天国のようでした。また、私は他の言語で新しい歌を歌っていました。それが終わったのは夕方 6 時でした。家に帰って来た兄さえもが私に尋ねました。「何があったんだ？」私が他の言語で彼に答え、彼に対する予言を解釈しました。聖霊は兄が神に改心することを予言したのでした。1年後に、兄は神に改心し再生されました。(その場所が写真 8 です)

同じ日の夕刻、私は聖霊に導かれて外に出ました。通りを歩いていると、通り過ぎる二人の少年に会いました。彼らは私の方を指さしながら言いました。「ほら、この人は僕らの飲むワインよりも良いワインを飲んだんだよ！」彼らは宿を出たばかりでした。これは五旬節(使徒 2: 12-13)の日の使徒たちのと同じ経験でした。

その日は私の人生の最良の日でした。私たちは、毎日、家々で集まって神に祈り賛美しました。神は私たちにいくつかの聖霊の賜物を下さいました。例えば、啓示、預言、異言の解釈、異言によって賛美を歌うことなどの賜物です。こうして、神は先ず私たちの町、それから国内と福音を広げるために私たちを準備して下さっていたのです。その後、私たちはヨーロッパの国々にも福音を広げることになります。イエスが言われた通りでした。「ただ聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはて

まで、私の証人になるであろう。」(使徒 1: 8) 私は心に福音宣教のための大きな負担を抱きました。私たちはイエスが弟子たちに言われたように何回も祈らなければなりません。「そして弟子たちに言われた、収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。」(マタイ 9: 37-38) 私は家に留まっていることができませんでした。聖霊は私を送り出されたのです…

福音の務めの始まり

神は多くの人々に対し彼の証しをしたり福音を説く多くの機会を私に与えて下さいました。ある時聖霊は私を墓地に遣わされました。そこにある女性が墓の側で嘆き悲しんでいるのを見つけました。私は彼女にイエスキリストの福音を語りました。彼女は注意深く聞いていましたが、彼女の悲しみの涙がうれし涙に変わりました。彼女は神と主イエスキリストを信じました。別の機会には御使いが私に言いました。「私があなたに示す教会の建物に行きなさい。」ブラチスラバの聖マルチン教会が見えました。彼は二度この場所を示しました。その時、実は私は郵便局に行きたかったのですが、御使いはそれを許してくれませんでした。御使いの顔は見えませんでした。彼の美しい翼を持った後ろ姿は見ることができました。教会の建物に行くと、一人の青年が出て来て、私に挨拶をして言いました。「おい、ポール、我々がここで会うとは、いったいどういうことなんだ？」私は答えました。「主が御使いを通して私をここに来させられたんだよ！」青年は私の友人の神学者のひとりでした。私たちはある軍隊のワークキャンプで短期間だけでしたが一緒に過ごしたことがありました。当時彼はニトラに住んでいたのですが、その時、彼は私のいる町を訪問していたのでした。私たちが聖マルチン教会で会った時、私は彼に完全な福音を説きました。彼は祝福されて大そう喜んでいました。(写真 34)

数日後に他の神学者が私のところにやって来ました。彼は神に対する熱心さゆえに神学校から除名されていました。主は彼に真理を示して下さい、彼は水のバプテスマを受ける決心をしました。ローマカトリックの神学に従った生き方は全く聖書的ではないことに気が付きました。彼はドナウ川でバプテスマされなければ絶対に家に帰らないと言いました。

私たちは彼のために祈りました。そして、神は彼がイエスの十字架を背負い、主イエスに従う細い道を歩こうとしていることを私たちに啓示されました。その日に彼はドナウ川でバプテスマされて歓喜しながら家に帰って行きました。(バプテスマの場所—写真 10、および彼自身のスナップ—写真 71)。

また、一人のカトリックの聖職者も転機しました。彼も神にとっても熱心でした。主は彼に福音の真理を明らかにされました。彼は7年間カトリック教会で奉仕をしていましたが、その教えに失望していました。信者たちは毎朝ミサに行くのですが、昼は居酒屋で酒を飲んだり、神を呪ったりして時間を過ごしていました。彼は転機して水のバプテスマを受け、また聖霊の中にもバプテスマされました。そして、完全な福音の熱心な伝道者となりました。カトリックの事務局から数人の聖職者たちが来て、彼に新しい車や新しい家を提供するなどと言いましたが、彼は戻ろうとはせず、こう答えました。「私はあなたの方が下さるものよりも遙かに多くのものを神様から戴きました。」

ある時、聖霊は私をある町の交差点に行かせられました。私がそこに立っていると、雨が降りだしたので、そこを離れようとする、聖霊は私を行かせません。間もなく、二人の女性がやって来ました。私は彼らと同じ方向に歩き始めました。二人が神への信仰について話しているのが聞こえてきました。彼らは互いに質問合っていました。私がそれに答えることができたので、二人はびっくりしました。私は二人を教会に招待しました。その夕刻、彼らはイエスキリストを受け入れる決心をしました。一人が聖霊の中にバプテスマされました。(写真 20: 私たちが出会った交差点)

私が家に帰る途中にこんなことがありました。私は聖霊から靈感を受けて病院に行きました。ベンチに掛けたとたん、ある女性が私に近づいて来て助けを求めました。彼女が言いました。「私の友人が事故に会ったのですが、家まで帰るのを助けて戴けないでしょうか。」私たちは長い間救急車を待っていましたが、なかなか来ませんでした。それで、私たちは彼女と一緒に帰り始めました。途中で患者が私に言いました。「神様があなたをここに遣わされたと思います。私たちは長い間、助けを待っていました。」私は答えました。「そうです、その通りですよ。私は家に帰る途中、神様が私をここに遣わされたのです。」それを聞いて、彼らはびっくりしました。私たちが彼らの家に着くと、テーブルに聖書がありました。私はそれを取り上げてヨハネ 3:16 を開いて読み、福音を説きました。彼らは非常に喜びました。そして、私たちは一緒に祈りました。神はこの家庭を救って下さいました。主を賛美します！

福音伝道の働きをしていた時です。私がある村まで行こうと歩いていると、救急車が私のそばに止まりました。そして、運転手が私に話しかけました。私は彼に言いました。あなたは人々の肉体の病気を癒すけれども、人は霊の病気と霊の死から救われる必要がある。それから、私はその村で福音を伝えました。それから、そこを離れようとしていると、聖霊がある家に私を導かれました。その家では妻だけが信者でした。彼女の夫は信仰に反対でした。私は彼にイエスキリストのことを語り、彼と一緒に祈り、そして、ギターを弾きながらクリスチャンの歌をいくつか一緒に歌いました。その後、男性の顔が変化したことに気付きました。そして、彼は私に敬意を表しました。翌日、私が家を出ようとしていると、彼が私を外に連れ出してこう言いました。「もし、昨日あなたが私たちの家に来て下さらなかったなら、私は今ごろ、死んでいるでしょう。私は首を吊ろうとしていたのです。しかし、あなたは新しい希望を私の人生の中に運び込んでくれました。神様が私を助けて下さいました。また、私を救って下さいました！」こうして、彼は改心して神に感謝したのです！（写真 25:私の左がその男性）

またある時には、主は非常に特別な方法で私を知らない家に導かれました。私は玄関に入りましたが、だれもいません。見上げると、壁に碑文がありました。「恐れてはならない、私はあなたと共にいる。」ハレルヤ！私によって希望を与えられました。その時、その住人の夫婦が入って来て私を歓迎してくれました。彼らはとても喜びました。彼らはバプテストの信者でしたが、聖霊のバプテスマを希望しました。私たちが一緒に祈っていると、女性が聖霊の中にバプテスマされて、新しい異言によって神を賛美しました。彼女が言いました。「私たちは何ヶ月もの間この賜物を祈り求めてきました。そして、今日、神様は私たちの祈りに答えて下さいました。主を賛美します！」（写真 70）

聖霊による神の助けといくつかの奇跡

自分の家に住んでいた時、私には教会の集会を持ちたいとの強い願いがありました。しばらく、そのことについて祈りました。そして、ある日曜日の朝、私は聖霊に感じて一つの部屋を集会のために準備しました。午前 6 時頃のことです。私はたくさんの椅子をそこに置き、テーブルを講壇にしました。午前 9 時頃には準備を終えました。それから、私は庭の方に出て行きました。そこには大勢の人がいました。

彼らの最初の質問は、「ここで集会がありますか？」でした。私は、「はい、今、部屋の準備をしたところです。」と答えました。準備していなければ、スペースは十分ではなかったでしょう。それ以来、私は一番広い部屋を用意することにしました。集会は長年にわたって持たれました。そして、神は私たちを祝福して下さいました。（写真 8~11: 部屋と家）

ある日、私はブラチスラバからおよそ 60km 離れたところで奉仕するよう招待されました。その日の終列車でそこ

に向かいました。車を降りたとき、私は友人の住所をなくしたことに気付きました。私は心の中で言いました。「おお、神よ、どうしたらよいでしょう？」終列車ではあるし、駅には電話ボックスもありません。寒い冬の夜だし大雪でした。私はひざまずいて祈りました。その数分後に、空に強い光が輝いて、そこに失った住所が書いてありました。しかも、方向まで示されていました。主を賛美します！ 私は大声を出して神に栄光を帰し、その方向に歩いて行きました。すると村と家が見つかりました。神は私に素晴らしい助けを与えて下さいました。ハレルヤ！（詩篇 46:1）（写真 68、69）

また、ある時、私は列車で旅をしました。私がコンパートメントに入ると、そこに座っている乗客が自分のカバンから大きな本を取り出して読み始めました。しばらくして、私は彼に、聖書を読んでおられるのですかと尋ねました。彼は答えました。「ええ、しかし、ちっとも分かりません。」そこで、私は彼に御言葉を説明してあげました。説明を終えてから、彼に尋ねました。「だれからその聖書を貰ったのですか？」彼は答えました。「私の親友のピーターガバナク君から貰ったものです。」私はびっくりしました。ピーターガバナクは私の兄だったからです。

主が私たちの祈りを聞いて雨を降らせて下さったこと

60年代に数ヶ月間雨が全く降らないために激しい干ばつがありました。奉仕の旅行で私はハンガリーにいました。私は列車でタピオ村に向かっていた。そこには大きな教会があります。一人の男性が言いました。「長い間雨が降っていないから、酷い飢饉になるでしょう。」私は答えました。「神だけがこの状況から私たちを助けることができます。」しかし、彼らは私を笑いました。

私が教会に到着すると牧師が言いました。「ポールさん、今夜、福音を語って下さい！」私は聖書を開くと、ヤコブ 5:17 の預言者エリヤに関する節がありました。「エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。」私はこの出来事について説教しました。その集会には主の臨在が強くありました。天の祝福が下って来ました。私は言いました。「今、私たちは、雨が降るように祈るべきです。」すべての信者たちが大声でまた異言で神に祈り賛美をしました。その夜は遅くなって集会を終えました。空を見上げると、月光が輝いています。雲はほんのわずかしかなかった。しかし、非常に静かな夜でした。その後、私たちは床につきました。

真夜中に私は夢を見ました。預言者エリヤが他の預言者たちと一緒にいました。突然、強い風の音が聞こえてきました。そして、一気に大雨が降り始めたのです。私は外に出て、神を褒め称えました。真夜中を過ぎた頃のことです。それから、雨は朝まで降っていました。朝、牧師が私に言いました。「昨日の私たちの祈りが答えられましたね。神の祝福が私たちの国にやって来ました。」

私たちは互いに言いました。「エリヤの神は生きておられます。そして、彼は今日も、また、永遠に同じです。ハレルヤ、アーメン。」（写真 36）

ある時には、私は全く異なった状況下にいたことがあります。雨が多くて畑の作物は水を被っていました。農家にとっては大変危険なことでした。その後、私はコシツェの町からハイという村まで旅をしました。その村は汽車の駅から 4km ほど離れたところにありました。私が汽車から降りると、空が暗くなって雨が降り始めました。私は歩きながら異言で祈りつつ、目は右も左も見ず、ただ、天だけを見続けました。しばらくすると、雲が二つに分かれました。そして、その間から太陽が輝き始めました。傘もレインコートも持っていませんでしたが、私は雨に濡れることもなく村に到着しました。彼らの最初の質問はこうでした。「こんなに雨が降っているのに、どうしてあなたは

濡れていないのですか？」私は答えました。「神様が私の上に覆いを掛けて私を助けて下さったのです。神を賛美します！」(道路一写真 77)

神様はまた福音を告げ広める際にも見事に私を助けて下さいました。彼は初期の使徒たちの時代と同じです。聖書を読むと、彼らが伝道しに行ったときに主が彼らと共に働いて、しるしと奇跡をもって御言葉を確認して下さいました。彼は今日でも同じことをなさいます。多くの人は奇跡を見たいがりますが、決して神に近付こうとはしません。神は今日でも奇跡の神です！しかし、私たちの彼への信仰と服従がなければ、彼はそれらを実行して下さいません。

いくつかの癒しの奇跡

多くの人は癒されたいのですが、神の言葉に従って生きたくはありません。多くの人は神の祝福が欲しいのですが、彼の戒めを守りたくはありません。残念ながら、それでは駄目です。既に旧約聖書では、私たちは癒しの契約を読むことができます、そして、それは非常に現在も有効です。

「あなたが、もしあなたの神、主の声に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つもあなたに下さない。わたしは主であって、あなたをいやすものである。」(出エジプト記 15: 26)

この聖なる戒めは今日も有効です。神の約束は神の言葉に従い御心に従って歩む人々にとってすべては有効なのです。多くの人が神のために生きることを開始するのが遅すぎます。これは残念なことです。私たちが神に立ち返るのは、多くの場合、私たちがたいそう困っているときです。ここで、神の奇跡についていくつかの証しをお話ししましょう。

ある日、私が列車でレビツェの町からブラチスラバまで旅をしていた時です。靈感が来ました。それはノベ・ザムキ駅でのことでした。私は車を降りなければならぬと分かりました。理由は分かりませんでした。私は車を降りて、いつも教会の集会のある家の方に歩いて行きました。月曜日でした。私はその家に着き、主人と女主人と話しをしました。神はなぜ私をここに来せられたのか、その理由を考えていたとき、一人の女性がドアを叩いて入って来ました。彼女は病気を嘆き悲しんでいました。手のリュウマチで何ヶ月もの間苦しんでいたのです。

私は聖書を開きました。ルステラで神が使徒パウロを通して足のきかない人を癒したまさにそのページでした。(使徒 14: 8-10) 私がその節を読むと、私はその女性が大きな信仰を受けたのに気がきました。私たちはひざまずきました。そして、私は大声を出して命じました。「イエスの御名によって手を延ばしなさい！」彼女は手を延ばして指を動かしながら大声で叫びました。「治りました、治りました！」彼女は嬉し泣きました。完全に癒されていました。彼女の話しによると、彼女は病院に行く用意をしていました。しかし、インスピレーションを受けて、この家にやって来たのでした。「神様が私を癒して下さいだったので、もう病院に行く必要はありませんわ、ハレルヤ！主を賛美します！」(写真 74) 6年後に私たちは再会して彼女にリュウマチのことを尋ねました。彼女は答えました。「私は完全に癒されています。」

同じような奇跡がハンガリーのバラトン湖の近くでありました。シオフォクの町にはたくさんの信者がいると聞いていました。私は彼らを訪問したいと願っていましたが、住所が分かりませんでした。そこで、私は機会が与えら

れるように祈りました。それから、私は汽車で初めてその方向に旅をしていました。二人の乗客が列車に乗り込んで来て私の向かい側に座りました。彼らが話している様子から信者であることが分かりました。そこで、二人に住所を尋ねると、彼らは喜びました。しばらくして、ひとりの人が自分の家に私を招待しました。私は再び神に感謝しました。彼の家族の客となったその夜、私は夢を見ました。多くの御使いたちが歩いて一つの部屋から別の部屋へと入って行くのです。翌日、彼が私に言いました。「私たちの教会の一人の兄弟が非常に重い病気に罹っているのです。一緒に訪問しませんか！」私たちがその家に入ると、男性が身動きひとつしないでベッドに横たわっていました。私たちは彼のために祈り始めました。一時間くらい後、一人の御使いが彼のために薬を持って来ました。数分後に彼は足と目を動かし始めました。しかし、まだ立ち上がることはできません。私たちがもう少し長く祈ると、神は私に次のようなビジョンを下さいました。その男性が立ち上がって神を褒め称えながら歩き始めるビジョンです。このことはその時には起こりませんでした。翌日、私が去った後に起こりました。私が家に戻ると、一通の手紙が私を待っていました。「麻痺していた男性は翌日立ち上がりました。そして、極めて健康です。今では自転車にも乗っています！ハレルヤ！」(写真 37)

ハンガリーの首都ブダペストを訪問した時のことです。私は家の主人に言いました。「聖霊が私を通りに遣そうとしておられます。一緒に行きましょう。」どこに、なぜ、行くべきかは分かりませんでした。私たちは通りを歩きながら彼に言いました。「この場所です。」彼は答えました。「ここには友人はいませんが。」

ところが、しばらくして彼が言いました。「すみません、忘れていました。友人が一人います。」それで、私たちはビルに入りました。廊下からその人の住まいの中を見ることができました。彼は高熱を出してベッドに横たわっていました。彼が私たちを見かけると、大声で叫びました。「あ、皆さん、お願いします。急いで医者を呼んで下さい。」しかし、私は兄弟に言いました。「神が私たちをここに遣わされました。だから、私たちは、まず、彼を呼ばなければなりません！」そこで、私たちは一緒に祈り始めました。数分後、彼も一緒に祈りました！それから数分後に彼は立ち上がって私たちに言いました。「神様が私を癒して下さった、癒して下さった。もう医者には要らない！」そして、彼は大声で神を賛美しました。「ハレルヤ、ハレルヤ！」熱は去りました。その後、私たちは一緒に教会に行きました。

私がコシツェからブラチスラバまで旅をしていた時のことです。タトランスカ・スツルバ駅で靈感を受けました。私は教会の集会場所である家に入って行きました。伝道者の妻が重い病気で、彼女は痛みを苦しんでいました。背中が痛くて。私たちは祈り始めました。そして、病気の霊に向かって、彼女の体から去れ、と命じました。その瞬間、彼女が言いました。「痛みを感じません。ハレルヤ！」最初に私はビジョンが見えました。ライオンが彼女の背中に噛み付いていました。しかし、そのとき、ライオンが殺されたのです。

困難な状況における驚くべき助け

ブダペストの郊外にある教会に招待された時のことです。私は地下鉄でそこに行きました。その駅に着いたのですが、教会のある通りが見つかりません。私は心の中で祈りながら、ゆっくりと歩いて地下鉄の駅に戻りました。列車が来たとき、たくさんの客が降りました。私が聖霊に感じてその中の一人に通りを尋ねました。男性は私を見て尋ねました。「あなたはだれを探しているのですか？」私は答えました。「フォガラッシーという人です！」私は彼の住所を示しました。彼が言った言葉に、私はびっくりしました。「神があなたを祝福しておられます！私がそれです！」私たちは抱き合い嬉しくて涙が出ました！主を賛美します！そのようなことが私の務めの間に何度も起こっています。

福音を告げ広げるにあたって、神は素晴らしい助けを下さいます。私がセシキ・テシン地区のクリスチャン家族

のところに滞在していた時のことです。私が祈っていると、神がビジョンを下さいました。緊急車両がトリネツに向かって走っていくのが見えました。屋根にはたくさん聖書が載っていました。聖霊が私をそこに遣わされていることが分かりました。そこに着くと、良い家族が見つかりました。私がそこに滞在している間、毎晩そこで多くの友人たちに福音を語りました。何人かが個人的な救い主としてイエスを受け入れました。二三週間後には、人数が20人以上に増えました。今後どうすべきか、主に尋ねました。主はビジョンによって答えて下さいました。みんなが大きなシートに座っているのが見えました。彼らはみな白い服を着ており、みんながバプテスマを受けるべきであることが分かりました。私はそのビジョンを彼らに説明しますと、全員が喜んでそれに従いました。

神は私たちがバプテスマする場所を見つけるのを助けて下さいました。水のバプテスマの後にある人たちは聖霊によってバプテスマされました。こうして、トリネツの教会が設立されました。今は100人以上のメンバーがいます。そして、この教会が他の六つの新しい教会の世話をしています。ですから、他の場所にも新しい教会が設立されているのです。(最初のバプテスマ—写真 28、長老たちとその家族—写真 17) 神はまた私たちが町々に教会を設立するのを助けて下さいました。ウヘルスキ・ブロート(写真 78)、ルツェネツ(写真 23)、トウルチアンスケ・テプリツェ(写真 54)、セニツァ(写真 56)、ドゥブニツァ(写真 58)や他にスロバキアやチェコ共和国においてもそうです。これはおこなったのは私たちではなく、神の恵みです。(1コリント 15:10)

神はご自分の子供たちの必要を顧みて下さる

ブルガリアのブルガスにあるペンテコステ派教会の伝道者ゲオルク・ケルネフ氏がブラチスラバにいる私を訪問したいと思っていました。そこで、彼は私に電報を打ちました。しかし、その電報が届いたのは彼の列車がブラチスラバの駅に到着したのと同じ時刻でした。彼が私を見つけるのは困難でした。それにもかかわらず、私は駅行きのバスに乗りました。その途中、神が靈感を与えられて私はドナウ川近くの停留所でバスを降りました。私は橋の上を歩いていました。橋の中央で両手を延ばしている人物に気付きました。それがブルガリアから来たケルネフ兄弟でした。私たちは抱き合って神を褒め称えました。「ハレルヤ。」(写真 48)

また、ある時、私はドイツから電報を受け取りました。10人ほどの信者がブラチスラバにいる私を訪問したいと思っているとのことでした。この時も、電報の到着が遅過ぎました。訪問者たちのための準備ができませんでした。私はどうしようかと考えていました。しかし、聖霊は私に祈るように導かれました。祈った後に神は私の心に平安を与えられたので何も心配しませんでした。靈感を感じて、私は立ち上がって窓の方に行きました。外を見ると、一人の女性が大きな包みを運んで来るのが見えました。彼女は私の家に入って来て、その包みをテーブルの上に置きました。それを開くと、驚きました。ローストビーフのスライスしたのがたくさん、それに、サラダやたくさんのケーキがあったのです。ハレルヤ！神がこうして私の訪問者たちのために備えて下さったのを見て私は感動しました。彼は素晴らしい方法でご自分の民の面倒を見て下さいます。訪問者たちには十分で余るほどでした！

ある時、多くの出費があったため、財布にはお金がなくなっていました。どうしようかと考えていました。数時間経ってから、神は私に靈感を与えて、郵便受けに行くように私を導かれました。手紙が中にありました。それを開くと中には500スロバキアクラウンが入っていました。これは二週間の暮らしに十分な額でした。

もちろん、聖霊はしばしば他の家族のために食料や衣服やお金などを持って行くように導かれました。一度、私はチェコ共和国のインドゥリフーフ・フラデクの町に行きました。町に着くと、私はいくらかの食料を買いました。それから、牧師の家に行って、これをみんなテーブルの上に置きました。牧師の妻は大声で言いました。「お金がなくて買い物を控えていたのに、あなたはすべてのを持って来て下さいましたわ。」

ある時、私は聖霊に感じて、ある未亡人にいくらかのお金を届けに行きました。彼女は言いました。「いつもなら年中、お金は十分にあるのですが、大きな出費があったので、今はお金がなくなっていたところですね。」

またある時には、或る貧しい家にスーツを届けに行きました。数週間後に、米国から荷物を受け取りました。中味は立派な新しいスーツでした。私たちは日常生活の中で同じような経験をしました。神が如何に一般の人々の面倒を見て下さっているかの証明です。

以上はすべてクリスチャンに対する迫害の時期の経験です。迫害は1948年から1989年まで続きました。その頃、集会は公に許されていませんでした。私たちの務めはすべて不法行為でした。集会、バプテスマ、聖餐、埋葬などがそうでした。これは容易なことではありませんでした。しかし、私たちは初めの愛の中で生きていましたから、私たちは尚一層神に近づくことができました。彼はこの困難な状況の中にあっても私たちを助けて下さいました。初めの愛の中でこそ、私たちは耐えることができ、より多くのことをおこなうことができます。

それゆえに、イエスは三回ペテロに尋ねられました。「ヨハネの子シモン、あなたは私を愛するか？」私たちが心から彼に従いたいと思うなら、私たちはイエスへの大いなる愛がなければなりません。私たちは迫害されましたし、時には、逮捕もされました。私は三度 刑務所に入れられました。しかし、神は私と共にいて多くの素晴らしい経験によって私を祝福して下さいました。最初の弟子は容易な状況にいなかったことを私たちは知っています。彼らも迫害を受けました。それで、使徒パウロはこう言いました。「私たちが神の国にはいるのには、多くの苦難を経なければならぬ。」(使徒 14: 22)。また、イエスは言われました。「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」(マタイ 5:10)

十字架の道における聖霊の務め

迫害の時期の経験

聖書にはこう書いてあります。「あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じるだけでなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。」(ピリピ 1:29。)神はイエスキリストにあつて豊かな命を下さいます。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ 10:10。)私たちは彼の救いを通してこのような命を戴くのです。彼はカルバリでご自身を犠牲とすることによって、私たちのために勝利を得られました。彼はまた聖霊を私たちに下さいます。聖霊の果実は超自然の愛、勝利の信仰、祝福された望みです。信者たちは全能の神とイエスキリストの御手の中にいます。だれも彼の手から彼らを奪い取ることはできません(ヨハネ 10:28)。また、彼らにはすべての理解を超越した超自然の喜びと平和があります。

しかし、また、イエスは言われました。「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい！わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)。そうです、この世において、私たちには誘惑があり、多くの問題や迫害があります。しかし、また、私たちは神のパワーによって世に打ち勝つことができます。使徒パウロは言いました。「それだけではなく、患難をも喜んでい。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。」(ローマ 5: 3-5)。これが永遠の命へと至る道です。私たちがイエスの愛を持っているなら、だれも彼の愛から私たちを切り離すことはできません(ローマ 8:38-39)。そうです、神は私たちの人生のあらゆる状況の中にあつて私たちと共にあります。私た

ちはイエスキリストの愛を必要とします。彼の愛がなければ私たちは苦しむことができないし、困難や誘惑の中で忍耐することはできません。

無神論が我が国で勢力を振っていた時代には、多くの信者が迫害を受けました。信者たちに対する暴力や乱暴な行為に抵抗した学生たちは学校を去らなければなりません。他の者たちは信仰を捨てるか無神論を受け入れました。しかし、真の信者たちは個人の家や森で集まって持ち堪えました。どんな場所での集也会も危険でした。あらゆる妨害にもかかわらず、私たちは集まりました。そして、神は素晴らしい方法で私たちを匿(かくま)って下さいました。そんな時でさえ、私たちの町ではリバイバルが始まりました。多くの人々が神へと改心しました。彼らは悔い改め、水のバプテスマを受け、その多くが聖霊の中にバプテスマされました。私が聖霊のバプテスマを受けたのは16歳の時でした。神は困難な時代にあつて、私たちがイエス・キリストの勇敢な証し人となって恐れや疑いもなく神の福音を告げ広めるために、私たちを準備しておられました。容易ではありませんでしたが、栄光あることでした。多くの場合に主は聖霊によって危険を知らせて下さいました。神の許可がなければ、だれも私たちに触れることができなかったのです。そして、彼が迫害を許されるとき、彼のために苦しむことは栄光です。私は信者たちのいろいろな経験を聞きました。ここにそのいくつかを紹介します。

ある、不信者のグループが、夜、信者たちの集會が終わったのを見計らって彼らを攻撃する計画を立てました。彼らは木の後ろに隠れました。しかし、信者たちが近付いて来た時、敵は周りに完全武装の兵士たちがいるのに気が付きました。彼らはいそいそ恐れて逃げ去りました。神は彼の民を保護して下さいました。ハレルヤ！その後、その迫害者のひとりがイエスキリストを受け入れて、教会で彼の経験を語ったのです。

同じ地域に一人の無神論者が住んでいましたが、彼はあらゆる手段を使って信者たちを迫害しました。彼は1人を殺さえました。しかし、間もなく、人々は彼について次のようなニュースを聞きました。第二次世界大戦の後のことです。森の中にはたくさんの採掘坑が残っていました。ある日、彼が森を通過して家に帰る途中、彼は地雷を踏んでそれが爆発しました。彼の肉片が少しばかり木に掛かっているのが見つかりました。これは聖書の御言葉の成就です。「あなたがたにさわる者は、彼の瞳にさわるのである」！これはゼカリヤ 2:8にあります。

秘密警察は何度も私たちを捜索しましたが、私たちはいつも別の場所で集まりました。神が私たちを匿(かくま)ってくださったので、彼らは私たちを見つけることができませんでした。ある日、私は集會の少し前に来ました。すると聖霊の声が聞こえました。彼は私に指示して言われました。「すぐ、家を出なさい！」なぜか分かりませんでしたが、私はそれに従ってその家から立ち去りました。およそ1時間してから、再び聖霊の声を聞きました。「今、戻ってもよろしい！」私が戻ると、その女主人が私に言いました。「あなたはどこに行ったのですか？」私が彼女に答えた後で、彼女が言いました。「あなたがいなくなったすぐ後に警察が入って来て信者を探し回りました。そして、あなたが戻る少し前に彼らは立ち去りました！」私たちはみんなで神の保護を感謝してそこを出ました。それから、私たちは神が聖霊によって示された別の場所で祝福された集會を持ちました(写真 78)。

何度も、私は新しい改心者たちをバプテスマしました。私たちはいつも神の守りと助けを祈りました。すると、聖霊がどこに行くべきかを私たちに示して下さいました。ある時、ドナウ川でバプテスマをしていると、こんなことがありました。私たちが水に入って行くと周りに雲と霧が立ちこめ、その中に御使いたちがいました(写真 10)。私がチェコのチェスキイ・テシでバプテスマを施していた時のことです。大きな家におよそ100人の人が集っていました。秘密警察が信者たちを見張っていました。全教会が熱心に神に祈りました。すると、私はビジョンを見ました。家の入り口に巨大な御使いが立っているのが見えました。御使いの翼がドアを覆いました。そして、だれも入ることができませんでした。全教会は歌って神を賛美しました。ハレルヤ。彼らは私たちを見つけることができませんでした(写真 75-76)。

何年も前のことです。私たちは両親の家に集まりました。いつものように秘密裏にです。時々、御使いが屋根の上に座って、家を警備しているビジョンを見ました(写真 11)。しかし、時には神は私たちの信仰がテストされるのを許されました。それは火の中へのバプテスマと呼ばれるものです。神の御旨に従って生きて、イエスのために苦しむことは、私たちに祝福をもたらします。イエスは言われました。「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」(マタイ 5:10) ある諺(ことわざ)は言っています。「十字架が大きければ大きいほど、イエスは更に近くなる。」これは本当です。

獄中の経験

全体主義体制の時期には、私たちの霊的な活動すべてが不法行為とされ、法律第 178 条には証しをすること、福音を伝えること、聖餐に参加すること、埋葬などが禁止行為とされました。捕まって起訴されると 2 年から 15 年の間獄に入れられました。そして、遂に私も獄に入れられる日がやって来ました。それが神によって許されたのが分かりました。その時ほど神の臨在を感じたことはありませんでした。私の心には天の喜びがあり、絶えず賛美を歌いつつ神に栄光を帰していました。刑務所に天の世界が下って来たのでした。私の心には如何なる悲しみも苦悩もありませんでした。御使いたちが言い知れぬ喜びをもって歌いつつ歓喜しているのを聞きました。しかし、私の周りの人たちはこのことは全く知りませんでした。私は敵を愛することができましたし、私に対してなされる邪悪なことも我慢できました。こうして、私は神の愛が世界で最大のパワーであることが分かりました。獄屋に入れられた時、私は先ずひざまづいてイエスのために迫害を受ける特権を神に感謝しました。私はノアの箱舟にいるような感じがしましたし、天にいる感じさえしました。時々、天が開きました。私はいつまでもそこにいたいと願いました。

最初は私ひとりでしたが、後で仲間が入って来ました。私は祈ったりクリスチヤンの歌を歌いました。だれでも私の獄屋に入って来れば、私はイエスの救いについての福音を語りました。

看守にはそれが理解できませんでした。彼らが私から食事を取り去っても、私は空腹を感じませんでした。彼らが私から毛布や衣服さえ取り去っても、私は寒く感じませんでした。主の臨在が私の上にあったからです。その後、囚人服を貰いました。それは私がこれまでに着た服の中で最高の衣服であるかのようにでした。その衣服は貴重で栄光でした。イエスのためにそれを着たからです。その時、イエスのための苦難がなぜ貴重であるかが理解できました。

ある時、ビジョンの中で、御使いが二つのカップを手を持って私に手渡しました。一方には苦い飲み物、他方には新鮮な甘い飲み物が入っていました。苦い方から飲んだ後で、甘い方を飲むのを許されました。そして、御使いが私に言いました。「ポール、私がいるから恐れることはありません。事態を良い方向に変えてあげます。」それから、私の前に大きくて立派な聖書が見えました。それは天から下って来たもので、開いていました。ペテロ第一の手紙第 3 章から第 4 章を私は読んでいました。文字は美しく、まるで銀で書かれたようでした。私が刑務所に入れられた時に私の聖書は取られていました。しかし、「私の言葉は霊であり命である。だれもあなたからそれを取り去ることはできない(訳注:ヨハネ 6:63)。あなたは神の言葉に満ちて多くの人々に証ししなければならない。」と言う声が聞こえました。

また、ある時、私が弱さを感じていると、ビジョンで神の霊の全武具を見ました(訳注:エペソ 6:13-17)。真理の帯、義の胸当て、平和の福音の靴、信仰の盾、救いの兜、霊の剣即ち神の言葉です。そして、声が聞こえました。「このすべての武具取りなさい。あなたはそのすべてが必要です。それがなければ、あなたは持ち堪えることはでき

ないし、立つこともできません。あなたの敵は打ち破られて、ただ吠えてばかりいる獅子のようなものに過ぎないことを知らなければなりません。いっさいの権威はイエスに与えられているのです。そして、彼こそはユダから出た唯一本物の獅子です。なぜなら、彼が悪魔を圧倒したからです。邪悪な者たちがあなたに向けて矢を放つても、神の完全な武具をあなたに与えました。」ここに住んでいることは、天の大邸宅か宮殿に住んでいるようでした。私は天国の匂いをかいで、まことに幸いでした。

ある日、囚人のひとりが私を見て尋ねました。「あなたは鉄格子の中において、どうすればそんなに幸福になれるんですか？」私は答えました。「私が幸いであるのは魂の中で自由であって、イエス・キリストが私の中に住んでおられるからです。だから、私には天の喜びがあるのです。」私は彼らに福音を伝えると、彼らは驚きました。毎日、看守が来て、私たちを工場で働かせました。ある日、看守が私を指揮していた時、私に腹を立てて私を殴ろうとしました。しかし、彼はただぐるぐる回るだけで私を傷つけることはできませんでした。その時、御使いが彼と私の間に立っているのが見えました。彼は不思議そうに見回していましたが理解できませんでした。また、私が舗道を掃除していたときは、新しいエルサレムにいるかのように感じました…ハレルヤ！

ある時、一人の兄弟が看守に殴られました。彼は泣くこともなく静かしていました。顔からは血を流していましたが、突然、彼の頭に栄光の冠が光り輝くのを見ました。キリストのために負傷することはクリスチャンに栄光と誉れをもたらします。私はこの特権に二度与りました。看守が私を殴り、髪を引っ張り、脚を殴りましたが、私は何の痛みも感じませんでした。獄屋に戻ってからビジョンを見ました。御使いが私のところに来て両手で私に触りました。すると、即座に私の傷が癒されて、私はとても嬉しくなって神を褒め称え始めました。私には、囚人と看守たちに多くの証しをする機会がありました。しかしながら、それは禁止されていたため容易なことではありませんでした。証しをして捕まると独房に移されました。私はそのような独房に三回隔離されました。しかし、神は私と共にそこにおられました。

私はまたそこにいて天に引き上げられたことがあります。私が監房に戻って祈っていると、突然、強い風の音が聞こえて私は引き上げられました。しばらくして、月が近くに見え、太陽やいくつかの惑星が見えました。遂に星々が見えてきました。多分、それは天の川の星群でした。それは素晴らしい光景でした。私は以前、そのようなものを見たことはありませんでした。そして、御使いが私の横に立っているのに気付きました。彼が宇宙を示してくれました。私はいつまでもそこにいたいと願いましたが、御使いは、私に多くのやるべき事があるから地球に戻らなければならないと言いました。強風が静まったとき、目を開けると、再び私は獄の中にいました。

数週間後に、私の周りで例の風の音が聞こえてきました。私は再び天に引き上げられることが分かりました。すぐに、炎の戦車が天上から私に向かって下りて来るのが見えました。そして、私はすぐに拾い上げられました。どれくらいの時間飛んでいたかは分かりません。瞬時に天に居ました。そして、私たちは水晶のように透明な川に着きました。私たちはパラダイスにいました。

私は降りて歩き回りました。素晴らしい森がありました。あらゆる種類の植物、いろんな種類の実のなった様々な木がありました。地球上でこんな光景を見たことはありません。いい匂いのするいろんな種類の花がありました。そこでは葉も花もしおれることはありません。すべては永遠です。

私は新しい言葉を話し、よく理解できました。私の周りに見えるすべてのものに名前を付けることができました。それは創世記 2:15-20 に出てくるエデンの園にそっくりでした。たくさんの鳥や動物たちがいました。また、そこにはまたたくさんの宝石がありました。新しいエルサレムは黙示録 21 章にあるように碧玉、サファイア、玉髄、エ

メラルド、縞めのう、紅玉随、かんらん石、緑柱石、黄玉(トパーズ)、緑玉髓、ヒアシンス石、アメジスト(紫水晶)などの宝石で建てられていることでしょう。また、私は勝利した人たちの名前のある白い石を見ました。それから隠されたマナ(黙 2:17)を見ました。私はそこにずっと滞在したいとの強い願いがありました。許されませんでした。私は川のそばで待っている炎の戦車に戻らなければなりません。そして、それに乗って地球に戻りました。私が目を開けると、風が止まりました。それから5分くらいは天の言語で話すことができました。この経験は迫害の時期にある私にとってとても大きな励ましとなりました。

別の機会には、聖霊が私を取り上げてフランスまで連れて行ってくれました。夕刻の事で、私は夜の首都パリを見ました。通りや広場やエッフェル塔などが見えました。私の霊は空中を舞いながらある教会に入って行きました。ちょうどその時、礼拝が行われていました。会衆は祈ったり、説教があったり、異言で歌って神に栄光を帰していました。私は礼拝をずっと見ていましたが、彼らは私を見ることはできませんでした。私はその集会から大きな祝福を受けました。それから、聖霊は私を元のところに連れ戻しました。私がそのことを他の囚人たちに証しすると、ひとりがイエスを受け入れ、イエスキリストの熱心なまた忠実な証し人となりました。彼も獄中で迫害されましたが、持ち堪えました。

また、刑務所には多くの反抗する者がいました。あらゆる刑務所(あるいはキャンプ)には訓練のための独房がありました。問題のある人物はそこに入れられました。そこでは囚人は食物が全く与えられないか、与えられてもわずかばかりでした。冬は寒さで眠ることができませんでした。多くの信者たちがこの独房に投げ込まれて、何人かはそこで亡くなりました。冬、或る者は有刺鉄線のフェンスの間で裸のまま吹雪の中を立っていなければなりません。私はこの矯正監房の中に三回入れられました。ある時、驚くべき方法で刑務所に聖書が届けられました。いくつかの宗派の信者たちがいました。時々、私たちは小グループの集まりを持ちました。私たちは祈って、聖書を読み、愛の中で互いの面倒を見合いました。

時々、私たちは看守から非常に厳しいチェックを受けました。そんな時でも私は聖書を隠していました。彼らがそれを発見できないことが二度ありました。一度、聖霊によって私はチェックされないということが明らかにされました。みんな小さな部屋を通らなければなりません。看守は彼らの持ち物をすべてチェックすることになっていました。私が部屋に入ろうとすると、いきなり、「出なさい！」と言う声が聞こえました。私は自分のカバンを開けることなくその部屋を出ました。だれも何も私に言いませんでした！このように、私は神の素晴らしい保護を経験できました。主を賛美します！

神の言葉を鎖に繋ぐことはできません。福音はいつでも、どこでも告げ広げられなければなりません。神の腕は短くないのです。どんな状況であれ、あの使徒たちの時代同様に彼は救うことができます。たとえ、私たちが困難に会うのを神が許されたとしても、私たちはそこから、より強くされ金のように純粋にされて出て来るようになります(黙 3:18)。なぜなら、「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている」(ローマ人 8:28) からです。

私たちは刑務所から様々なキャンプに移送されました。一つのキャンプでは、1000人や3,000人の囚人たちの間で生活しました。そこでの労働はきついものでした。最初、私は地下深くのウラン鉱山で働きました。毎日、彼らは囚人の数を数えていました。だれかが休むか眠っていたなら、キャンプ全体が彼を待たなければなりません。すべての囚人には番号が付いていました。彼らはだれも本名を使用しません。忘れもしません、私の番号はA-018 801でした。一日に二度の食事が与ええましたが、きつい困難な作業には十分ではありませんでした。鉱山からキャンプに戻ったときには、恐ろしく疲れていました。しかし、私たちの大部分は団体で行進しなければなりません。私たちの何人かが精神的に衰弱して自殺しました。その時、私は真の信者であることが

なぜ大切であるかが分かりました。信じない人には信仰がありません。愛も望みもありません。したがって、そのような人が苦難を乗り越えるのは更に困難なのです。

こう書いてあります。「世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信じる者ではないか。」(1ヨハネ 5:5) 更に、「そして、わたしたちの**信仰こそ**、世に勝たしめた勝利の力である。！」(同 5:4) これは私たち信者が持っているすばらしい特権です。私たちは偉大な信仰と希望を私たちの心の中に、したがって、神の愛をも持つことができます。私たちはどんな悪い状態をも支配して、悪魔と罪、即ちこの世に対するあらゆる戦いに勝利を収めることができます。こうあるからです。「あなたがたのうちには、世にある者よりも大いなる者なのである。」(1ヨハネ 4:4)

また、私たちには神からの偉大な保護があります。私の人生で、今、私が証している時期ほどに神が身近であられた時は他にありません。もし神が私たちのためであるなら、だれが私たちに反対できますか？ 彼の素晴らしい恵みゆえに主を賛美します！ 私の人生で三度、私たちの主イエス・キリストを見ました。私はこれらの経験をよく覚えています。それが御使いではなく、主イエス・キリストであったことが私には分かっていました。一度は、ヨハネがパトモス島で見たのと同じような方法で彼を見ました。イエスは最も強力な霊的な人です。ですから、使徒ヨハネは彼の前に立っていることができないで、死人のように彼の足元に倒れました。(黙 1:17)

それは刑務所で起こりました。主イエスが強い光の中に現れました。そして、彼の周りには雲がありました。彼は白い衣をまとい、胸には金の帯がありました。頭と髪は羊毛のように白く、目は燃える炎のようであり、声は大水の轟きのようでした。彼がはっきりとこう言われるのを聞きました。

「私は初めであり終りです… 恐れてはなりません。私があなたと共にいます。私のパワーに敵対するパワーはありません。私の力に逆らう力はありません。あなたに触れる者は私の目に触れる者です。あなたの心は大胆でありなさい。…天においても地においてもすべての権威は私に与えられています。忘れてはなりません。…」そのほか多くの励ましの言葉を聞きました。私の霊に聖なる恐れを感じました。彼の顔を見ることはできませんでした。とても荘厳で素晴らしいものでした。私の魂は強くされて、以後、私は大胆に福音を宣言することができました。他にもずっと多くの経験をしましたが、これであなたを励ますのに十分であろうと思います。

私の入獄の最後の日が近づいていました。もちろん、私はそのことを知りませんでした。その時は既に私の二度目の入獄の時でした。全部で6年間の刑務所生活で、1年間は厳しい作業キャンプにいました。神は困難な日を短くして、祝福された日を非常に長くすることができます。また、彼は最も苦しい時を最も甘い時にすることもできます。彼は私たちの益のために、私たちの人生におけるあらゆる状況を変えることができます。彼は苦難にあっても全能の神です。

私の入獄の最後の数日間、8日の間、私は矯正監房に入れられました。そこは地下の墓のような小さな部屋でした。小さな電灯があるだけでした。看守が私をそこに連れて、鉄のゲートに鍵を掛けました。私が祈りつつ目を上げると、ビジョンがありました。イエス・キリストが彼の使徒たちと一緒に最後の晩餐を飲み食いしておられるのが見えました。そして、すぐにイエスが私にこう言われるのを聞きました。「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた。」(ルカ 22:15) そして、イエスは「苦しみを受ける前に」と言いながら私を見られました。私は彼の言われることを理解しましたが、私は悲しくありませんでした。彼は私たちが彼のために苦しむよりずっと多く苦しみました。そして、彼のための私たちの苦しみは祝福されています。な

ぜなら、それは義のためだからです。しかし、彼の私たちのための苦しみはもっとひどいのです。なぜなら、それが私たちの罪のためであったからです。(1ペテロ 3:14)

その頃でも、私はいつも神の臨在の中にいました。そして、天からのいくつかのビジョンを見ました。聖霊は私に黙示録を理解するよう教えて下さいました。また、家や教会やキャンプで起きていることを私に示して下さいました。このように、私が身動きできない暗い監房の中にも、必要なことは知ることが出来ました。また聖なる御使いたちと悪霊どもとの霊的な戦いをも見る事ができました。

ある日、他のものはさておき、前のチェコスロバキアの首都であったプラハ市を見ました。フラッドチャニ城も見ました。それから、大統領がテーブルのそばに座って囚人の特赦の書類にサインをしているのを見ました。それから大勢の囚人のグループが鉄の門の前にいて、キャンプの指揮官が放免される囚人たちの名前を読み上げるのを見ました。そして、私たちが刑務所を出るのを見ました。数日後に、正確にこのことがすべて起こりました。しかし、その時、私には少しばかり疑問がありました。聖霊はその時釈放されない親友たちみんなのビジョンを私に示されました。それは真夜中近くの頃でした。私は暗い監房の中にひとりで座っていて、食物もありませんでした。また、そこは非常に寒く、私は疲れていて空腹でした。私の周りには天の静けさがありました。その時、屋根の方を見ると、上から私に光が差していました。

天が開かれており、美しい花々が私の獄にまで下りて来ました。私は再び天の匂いをかぐことができました。天は私の特赦の日の送別の挨拶を送っていたのです。

それから、再び暗くなりました。鎖のがちゃがちゃ鳴る音が聞こえて、看守が鉄の門を開いて私の番号と名前を呼んで外に出るように言いました。それは夢のようでした。彼らは私を別の建物まで導きました。囚人たちには何のことだか分かりませんでした。しかし、私には分かっていました。啓示されていたからです。私が特赦だと言っても彼らは私を信じませんでした。しかし、翌日、それが現実となりました。特赦が宣言されたのです。そして、聖霊が2日前に私に示された事が実現したのです。私たちは鉄の門の前に立っていました。キャンプの指揮官が私たちの名前を読み上げていました。太陽の輝くうらかな日でした。外は一面の緑、鳥が近くのフェンスの上で鳴っていました。私にとって、その日は復活の日のようでした。

その時、私の名前が呼ばれました。私はキャンプの鉄の門を通過して出て行く時、声が聞こえました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ 16:15) 私はそれがとてもよく理解できました。私の心は天の喜びに満ちて、ブラチスラバの我が家に急ぎました。

それ以来、私は多くの場所、町、都市、外国(20ヶ国)で伝道してきました。主はいつも私と共におられました。そして、私は彼の偉大なパワーと彼の美しい働きを見る事が出来ました。信者の人生において、福音を伝えることは極めて重要だと思います。**だれも主の働きを止めることはできません。福音を鎖で繋いでおくこともできません!** そうです、今日、福音を鎖で繋いでおくことはできないと証しできます。なぜなら、「それは信じるものに救いを得させる神の力である」(ローマ 1:16) からです。イエスは昨日も今日も永遠に同じです。彼に栄光と賛美を捧げます。ハレルヤ。アーメン。